

ザ・クインテッセンス／2013. 4月号

○インプラント矯正への誘い 第1回 インプラント矯正とは

STEP1・2：圧下・挺出への対応 (金成雅彦)

*従来、矯正治療において固定源確保するために顎外固定装置を用いることも多かったが、審美性の乏しさや煩雑さから患者の協力性にかけることもあった。顎骨や歯槽骨に植立されたミニインプラント (Temporary Anchorage Device : TAD) などに固定源を求めるインプラント矯正は、比較的シンプルで術者主導型の治療が可能になった。本稿では、その利点と欠点 TAD 埋入の処置の留意事項を、症例を交えて解説している。第1回では挺出と圧下についてのポイントをわかりやすく示され、一般臨床における部分矯正でも大いに役立つ内容である。

日本歯科評論／2013. 4月号

○特集 1つ上を目指す歯内療法へのアプローチ (II) 歯内療法における偶発症への対応 (I)

(木ノ本喜史 他)

*日常臨床でよく遭遇する歯内療法におけるトラブル。注意を払っていても偶発的に起こることも少なくありません。そのトラブルをどう回避するか、起こった時どう対応するかなど2回にわたって特集します。今回は歯内療法における穿孔、エンドペリオ複合病変、歯根内・外部吸収について解説しています。明日からの臨床にすぐ役立つ内容です。

○私の研究室から 口腔感染制御から SoLA を目指す! (大森一弘 前田博史 高柴正悟)

*岡山大学大学院医歯薬総合研究科 歯周病態学分野の紹介記事です。我々の日々の診療の基本をささえ、進化させるために研究していることを実感します。

○パノラマエックス線写真で発見できる顎口腔疾患 10. 歯肉癌 (今村栄作)

*歯肉癌は初期のうちに我々歯科医師がみつかることができる癌の一つといえます。しかし発生初期は通常無症状のため、歯肉炎、口内炎、義歯による潰瘍などと間違えやすいものです。かかりつけ医として迅速な紹介ができるよう、是非一読をお勧めします。

デンタルダイヤモンド／2013. 4月号

○実践歯学ライブラリー：メタルフリー歯冠修復の現在

～レジン支台築造からオールセラミッククラウンまで～ (坪田有史)

*メタルフリーの歯冠修復は、患者さんの審美的要求にこたえるだけでなく、金属アレルギーなどの金属修復の問題点も解決できる。しかしながら、その種類と特徴、使用法を熟知している術者は少ないのではないと思われる。本特集では、支台築造、間接法用コンポジットレジン、セラミックスについてと接着システムについて解説しており、是非一読をお勧めする内容です。

○歯科臨床 次の一手：コンポジットレジン修復の適材・適処④

シェードテイキング&明度テイキングを知る (大谷一紀)

*明度とは「明るさ」のことであり、黄色とか茶色という色味を無視した白いか黒いかでの色の概念である。患者さんからのクレームのほとんどが明度の低さに関連しているので、シェードテイキングで優先すべきことは、隣在歯や残存歯質との明度の調和を図ることである。シェードテイキングは、処置を行う前に行うこと、歯の特徴もとらえることが大切である理由を説明し、色の調和を得ることが難しい4級窩洞に対して、2つもしくは3つのシェードで自然感のある充填を完成させる充填方法を解説している。

歯界展望／2013. 4月号

○特集 トラブルを起こさない局所麻酔 2

・抜歯における局所麻酔のトラブルと防止策 (山本英雄)

・インプラント手術における局所麻酔の注意点 (黒田真司)

*先月に続き局所麻酔について取り上げている。題目には「トラブルを起こさないには」とあるが記述の多くはどのように局所麻酔の注射を行えば、効果的に無痛が得られるか、患者を快適に治療できるかを詳細に述べたものといえる。麻酔前の医療面接に時間をかける事の重要さとか、抜歯時の確実な麻酔の方法を使用量 (思いのほか少量) についてまで詳しく述べている。基本に返って日常の自分の治療を考えるよいきっかけになると思う。

○新連載 ペリオの処置方針をどのように考えるか1 根分岐部病変への対応

(東京都開業 清水宏康)

*分岐部病変の存在は歯周病の管理を著しく困難にする。しかし患者によってはメンテナンスだけでも良好に維持管理できることから、必ずしも完全閉鎖を得られなければ予後が不良になるわけではない。ケースアセスメントと予後判定から処置方針を考えなければならないだろう。本投稿はその考え方を整理して提示してくれている。